

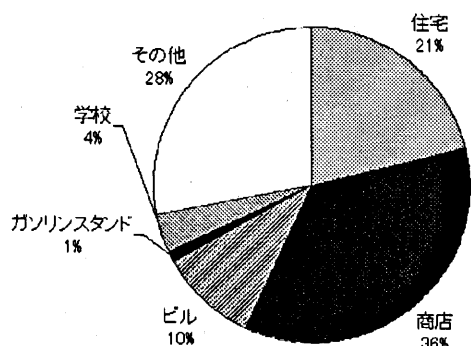


図11 ツバメの営巣場所

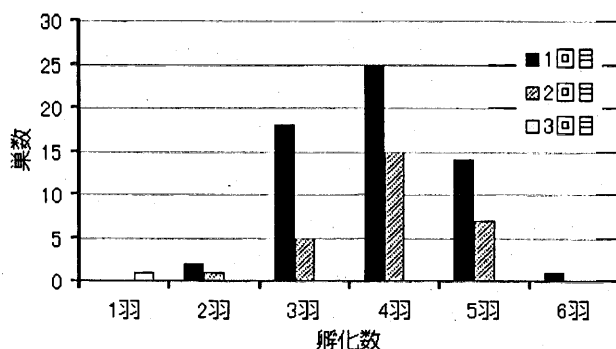


図14 ツバメの繁殖1回当たりの孵化回数

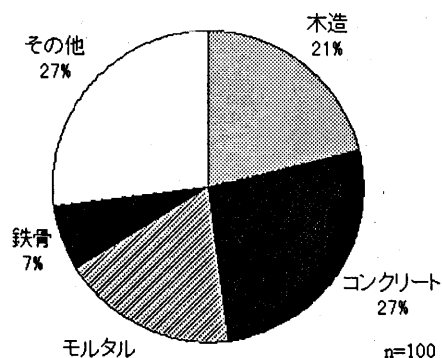


図12 ツバメの営巣場所の材質

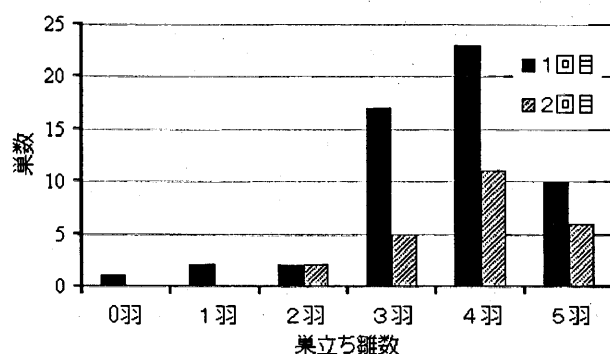


図15 ツバメの繁殖1回当たりの巣立ち数

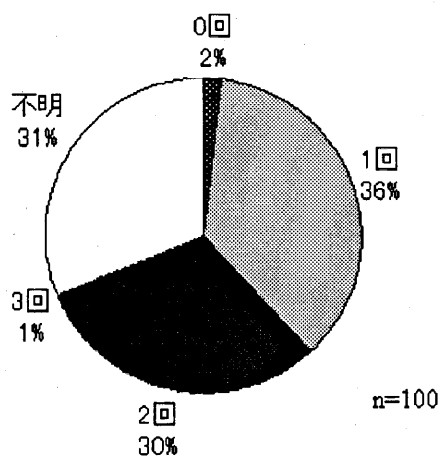


図13 ツバメの孵化回数

占め、住宅が21%、ビルが10% (n=100) となった。

1-2-2. 営巣場所の材質

営巣場所の材質について3年間の情報をまとめた結果を図12に示した。営巣場所の材質はコンクリートが27%と最も多く、木造が21%、モルタルが18%となった(n=100)。

1-3. ツバメの育雛状況について

孵化回数について、3年間の情報をまとめた結果を図13に、繁殖1回当たりの孵化数を図14に、繁殖1回当たりの巣立ち数を図15に示した。孵化回数は、1回が36%と最も多く、2回が30%、3回が1%となり (n=100)、ほとんどが2回以内であった。

繁殖1回あたり孵化数は4羽が最も多く(1回目25巣、2回目15巣)、3羽(1回目18巣、2回目5巣)、5羽(1回目14巣、2回目7巣)の順で多かった。

繁殖1回あたり巣立ち数は4羽が最も多く(1回目23巣、2回目11巣)、3羽が1回目17巣、2回目5巣、5羽が1回目10巣、2回目6巣という結果となった。

2. 白いチョウの仲間の目撃情報

2-1. 白いチョウの仲間の目撃されたメッシュ数

調査期間は、4月1日から12月31日までの9ヶ月間で調査員に指示した。調査員によって調査期間は異なったが、概ね4月から12月まで行なわれた。調査された累計のメッシュ数およびモンシロチョウ、スジグロシロ

表2 白いチョウの仲間の各年度の日撃記録

種名	年度	単位:メッシュ			
		いた	いない	わからない	未記入
モンシロチョウ	H9	25	0	1	1
	H10	13	0	1	0
	H11	6	0	0	1
	H12	-	-	-	-
	累計	44	0	2	2
スジグロシロチョウ	H9	13	1	11	2
	H10	6	1	6	1
	H11	3	1	1	2
	H12	-	-	-	-
	累計	22	3	18	5

表3 タヌキ、ハクビシンの各年度の日撃記録

種名	年度	単位:メッシュ			
		いた	いない	わからない	未記入
タヌキ	H9	2	14	6	5
	H10	2	10	2	0
	H11	1	4	2	1
	H12	-	-	-	-
	累計	5	28	10	6
ハクビシン	H9	2	18	3	4
	H10	0	13	1	0
	H11	5	1	2	0
	H12	-	-	-	-
	累計	7	32	6	4

チョウの調査結果を表2に示した。累計の日撃記録は、モンシロチョウでは「いた」が44メッシュ、「いない」が0メッシュ、「わからない」が2メッシュ、「未記入」が2メッシュ、スジグロシロチョウでは「いた」が22メッシュ、「いない」が3メッシュ、「わからない」が18メッシュ、「未記入」が5メッシュであった。モンシロチョウ、スジグロシロチョウについて4年間で一度でも日撃情報の得られた場所を図16、図17に示した。

3. タヌキ、ハクビシンの日撃情報

3-1. タヌキ、ハクビシンの日撃されたメッシュ数

調査された累計のメッシュ数およびタヌキ、ハクビシンの調査結果を表3に示した。累計の日撃記録は、タヌキで「いた」が5メッシュ、「いない」が28メッシュ、「わからない」が10メッシュ、「未記入」が6メッシュ、ハクビシンで「いた」が7メッシュ、「いない」が32メッシュ、「わからない」が6メッシュ、「未記入」が4メッシュであった。4年間で日撃情報の得られた場所を図18、図19に示した。年度間で重複して日撃された場所はまとめて示した。

4. タンポポの仲間の日撃情報

4-1. タンポポの仲間の日撃

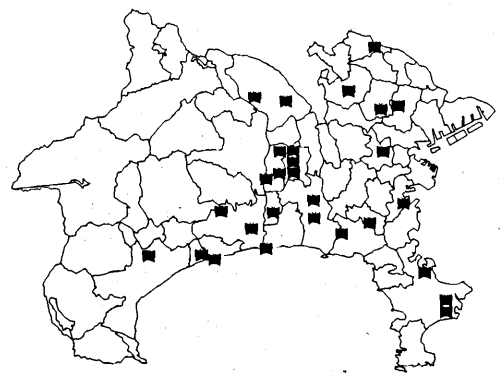


図16 モンシロチョウの日撃された場所

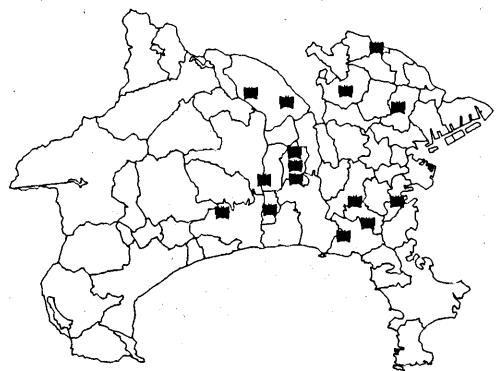


図17 スジグロシロチョウの日撃された場所

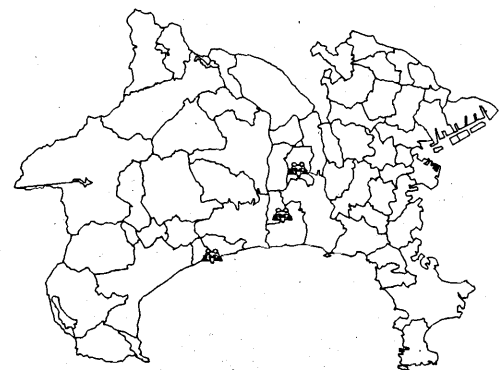


図18 タヌキの日撃された場所

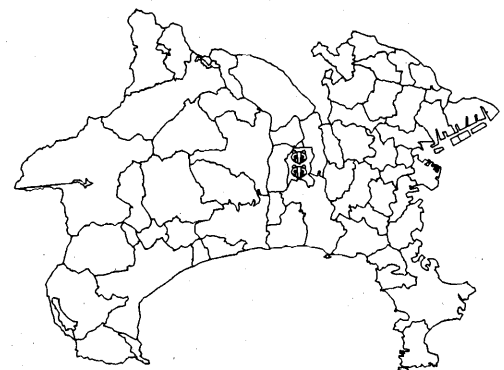


図19 ハクビシンの日撃された場所

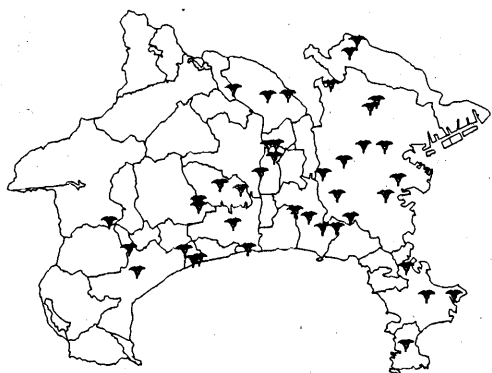


図20 カントウタンポポの目撃された場所

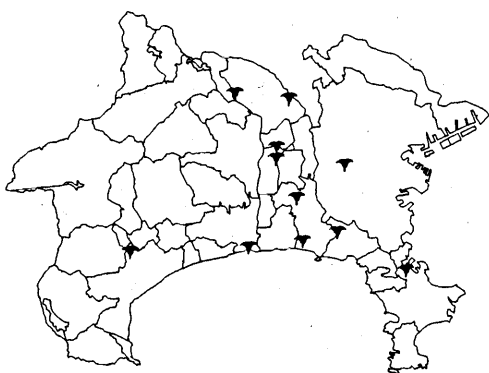


図21 シロバナタンポポの目撃された場所

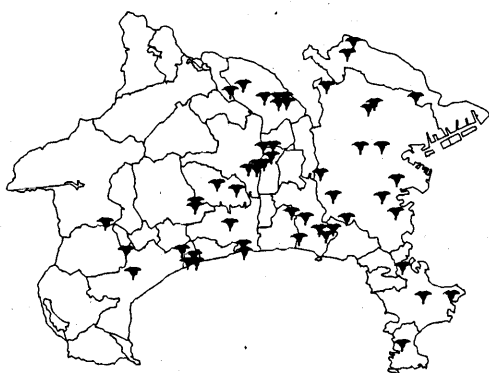


図22 帰化タンポポの目撃された場所

平成9年度～平成12年度の4月1日～5月31日の期間に調査された累計メッシュ数は、58メッシュであった。58メッシュの中で、カントウタンポポは41メッシュで、シロバナタンポポは11メッシュで目撃された。帰化タンポポは、54メッシュと最も多く目撃された。4年間に一度でも目撃情報の得られた場所を図20～図22に示した。

4-2. タンポポの仲間の勢力比

調査された各メッシュで、浜口(1989)の方法に従い、以下の式でタンポポの勢力比を算出した。

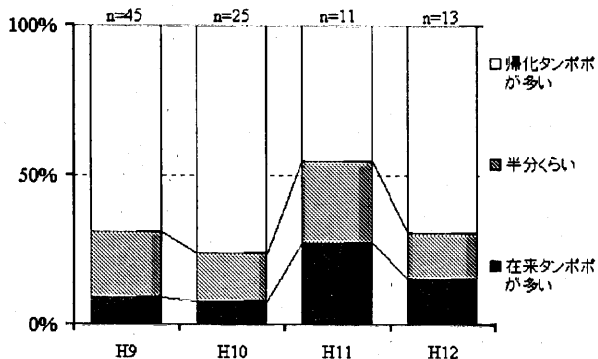


図23 タンポポの仲間の勢力比、各年度の内訳

勢力比=(カントウタンポポの目撃地点数+シロバナタンポポの目撃地点数)/(各メッシュにおけるタンポポの仲間の目撃地点数)

ここで、 $0 < \text{勢力比} \leq 1/3$: 帰化タンポポが多い、 $1/3 < \text{勢力比} \leq 2/3$: 半々くらい、 $2/3 < \text{勢力比} \leq 1$: 在来タンポポが多い、とした。

算出された勢力比を年ごとにまとめたものが図23である。各年とも「帰化タンポポが多い」と算出されるメッシュが最も多く、調査されたメッシュの50～75%程度を占める。「在来タンポポが多い」と算出されるメッシュは、各年とも少なく、調査されたメッシュの10%～30%程度であった。

4-3. タンポポの生え方

目撃地点におけるタンポポの仲間の生え方について、4年間の情報をまとめた結果を図24に示す。

カントウタンポポの生え方は、「単独」で生えているものが36%、数株づつ「散在」して生えているものが39%、「まとまって」生えているものが23%であった(n=261)。シロバナタンポポは、「単独」で生えているものが多く、76%を占めた(n=25)。帰化タンポポは、

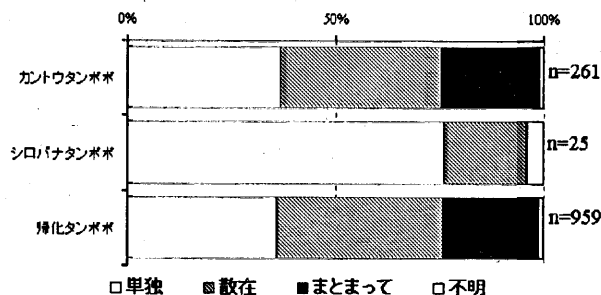


図24 タンポポの仲間の生え方

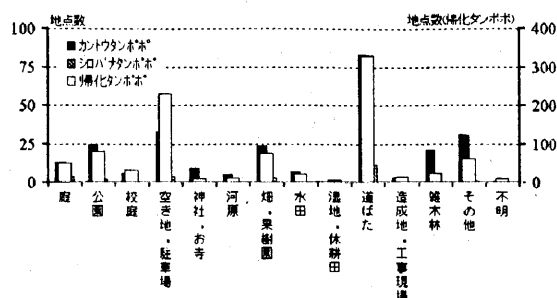


図25 タンポポの仲間の生えている場所

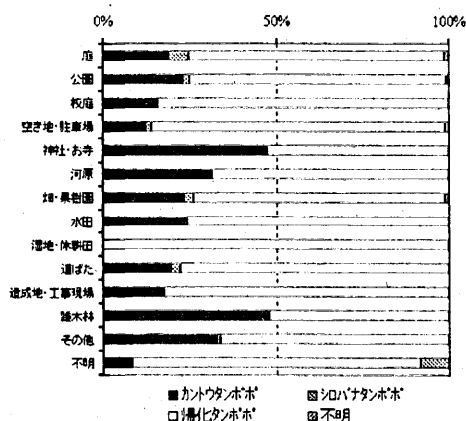


図26 各土地利用におけるタンポポの仲間の内訳

「単独」で生えているものが36%、数株づつ「散在」して生えているものが40%、「まとまって」生えているものが22%となり($n=959$)、カントウタンポポとほぼ同じ結果となった。

4-4. タンポポの生えている場所

目撃地点におけるタンポポの仲間の生えている場所について、4年間の情報をまとめた結果を図25に示す。なお、図25では、各土地利用の種類における出現頻度の傾向を比較するため、帰化タンポポのみ右軸を用いている。

カントウタンポポ、帰化タンポポは、「道ばた」で目撃されることが最も多く、次いで「空き地・駐車場」で目撃された。カントウタンポポ、帰化タンポポの比較において、各土地利用の種類における出現頻度の傾向はほぼ同じものとなった。シロバナタンポポは、「道ばた」、「空き地・駐車場」、「庭」等で目撃された。

各土地利用の種類で目撃されたタンポポの仲間の内訳を、図26に示す。カントウタンポポは、「神社・お寺」、「雑木林」で相対的に多く目撃された。一方、帰化

タンポポは、「空き地・駐車場」、「造成地・工事現場」といった土壌が一度攪乱された場所で相対的に多く目撃される傾向にあった。

5. 人里の植物の目撃情報

5-1. 人里の植物の目撃

平成9年度～平成12年度の8月1日～9月30日の期間に調査された累計メッシュ数は、30メッシュで

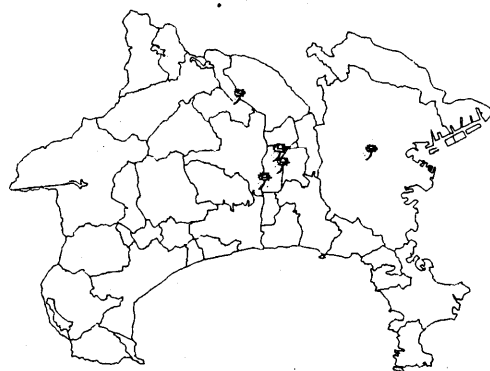


図27 オミナエシの目撃された場所

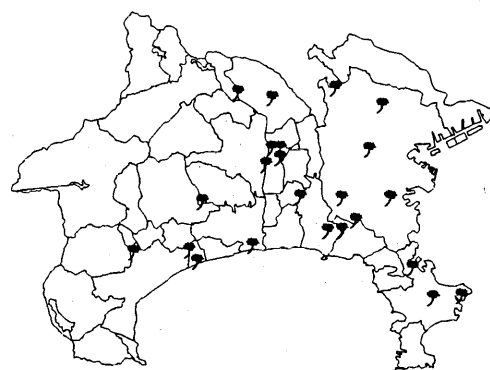


図28 ミズヒキの目撃された場所

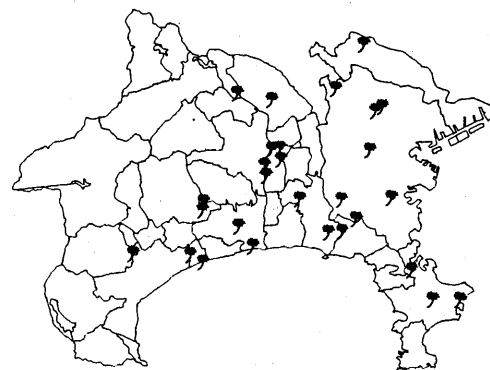


図29 ヒガンバナの目撃された場所